

神戸女学院大学 心理学部 心理学科 精神保健福祉士養成課程 ニュースレター

第5号



3年生の授業(ソーシャルワーク実習指導Ⅰ)において、神戸市長田区にあるふたば学舎で11/9(土)に行われたハートフェスタ2024に参加させていただきました。シンポジウム『ヘルパーさんあれこれ～私たちの介護を考える～』において、精神障害者の当事者や介護されている方のお話を聞かせていただきました。

・お話を聞いて、病院の長期入院や住居問題、介護の人材不足など様々な理由で障害を持つ方が実際に地域で生活することはなかなか難しい現実を知りました。障害者の地域移行を可能にするためには、このお話し会のような機会を増やして多くの人に参加し、地域全体が障害への理解を深めることが重要だと思いました。

・介護についてのお話を聞き、介護者や支援者の姿勢についても学ぶことができました。車の運転に例えられた「運転のハンドルを握るのはピア(その人)自身であり、支援者はあくまでも同乗者」という考え方や、質疑応答の時間内で出た意見であったヘルパーなどの支援者の価値観の押し付けや、意図せずに利用者の行動を制限していることがよくあることなどを知ることができました。

今回のハートフェスタ シンポジウムでは普段の学校生活を送る中では聞くことできない、とても貴重なお話を聞くことができました。将来自分になるであろう支援者の立場だけでなく、支援や介護を受ける側について理解し、その立場に立って考えられる支援者になりたいと思いました。



同じくふたば学舎で11/30(土)～12/1(日)行われた日本病院・地域精神医学会総会兵庫大会に学生ボランティアとして参加させていただきました。学会運営をお手伝いさせていただくと共に、ワークショップ『オープンリカバリーカレッジ@KOBE～Co-production(共同創造)』について学んで体験しよう ちゃうちやうでええやん!』やシンポジウムなどに参加させていただきました。



・リカバリーについて授業で学んでいましたが、リカバリーをするとはどういうことなのか、講義を通して具体的なプロセスや方法について深く理解することができました。リカバリーカレッジの魅力は、意見交換することに対して気軽に取り組めることだと思います。実際に参加してみて、自分の発言に対して不安を感じない環境は、安心感や心のゆとりを与えてくれるため、癒しを感じたり、リフレッシュができるのだと思いました。そして、そうした環境が相手の意見や思いを素直に受け入れる気持ちに繋がるのだと感じました。

・今回の学外実習では、多くの方々と出会い、直接お話を伺いながら意見を交換する中で、自分の視野が広がったような気がしました。

・家族のリカバリーを考えるワークショップでは家族支援についてお話を聞きました。講演中に出てきた「精神病がドアから入ると、会話は窓から逃げていく」という表現がまさにその通りだと感じ、病気を抱える本人だけでなく家族も辛くなり、コミュニケーションが減ってしまう現実を捉えていたので、印象に残ったのと、家族が心の余裕を持って積極的に会話をする事の重要性を再認識しました。精神障害を持つ本人への支援はもちろん重要ですが、その家族への支援ももっと注目されてほしいと思いました。また、家族だけでなく、周囲の人々も理解を深め、支え合える環境が広がることで、誰もが安心して生きられる社会になると考えました。

